

私たちの住んでいる北海道名寄市の街は、昔と比べ人が集まらなくなったため、活気がなく人々の交流が疎遠になってしまいました。さらに後を継ぐ若い世代が地元を離れ、街中の人通りが減り淋しく感じました。しかし、名寄市では夏祭り・盆祭り・雪祭り・アスパラ祭りなどの大きなイベントの際には街が人で賑わいます。このようなイベントをもっと頻繁におこなうことができれば街中が活気になり、人々が関わりを持つ事ができるのではないかと考えました。名寄市には昔から多くの人に親しまれている道北最大の西洋パレードがあり、イベントを行う時はいつも市民の中心にある建物で、市内で1番人が集まる場所です。そこで西洋祭を中心に市内各所で小さな祭りや建物を建て、それぞれの場所に住む人々が協力し賑わいを作りだします。

今では静かになってしまった街に夏祭りの火を灯すことにより、古き及ぎど近所同士の絆が深まり、名寄市全体が一つに団結し、活気と盛り上がりを取り戻せるような都市計画を考えました。



もともと北条の地蔵堂にあり、道北の拠点となる地域です。 道北の町作りが現在の名寄市の中心です。 市民は道北のパレード街を中心とした生活を営んでいますが、賑わいが足りません。 とても西洋祭を中心とした街に祭りや建物を建て、街中の活気を取り戻します。 祭り長屋は賑わいという共通の記憶で街を作り直します。 全体の都市計画の中で街の範囲に建物としての提案をし、都市の活性化を促します。



街中の多量の空き地に祭り長屋を建てます。 祭り長屋の中心にある、西洋の屋上に市内の象徴となる「イベントスペース」を作ります。 夕方、街の各所から祭囃子が聞こえます。



一致団結



祭り長屋は賑わいという共通の記憶、この形が基本となり建物の中心は周辺の人が自由に出入りを行います。さらに通り抜けができる開口により、他の地域から来た人や周辺の人がどこでも気軽に出入りすることができ、人々が仲良くなります。



表店や中店では住所の人々が集まりそれぞれ好きな夏祭りを観えます。通り抜けできる空間とし、内外に開口を開くことで、開放的になり気軽に立ち寄ることが出来ます。

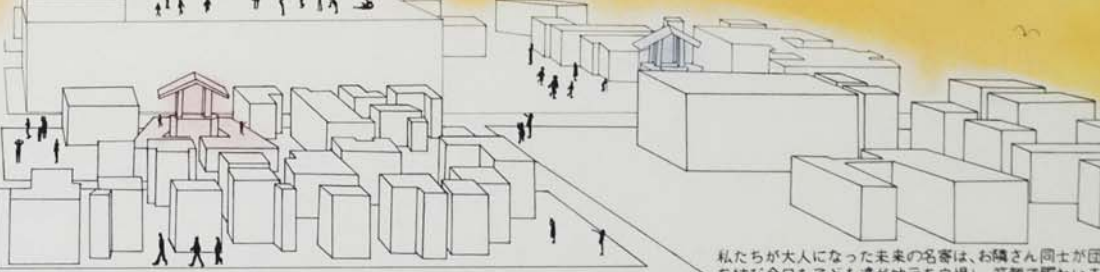
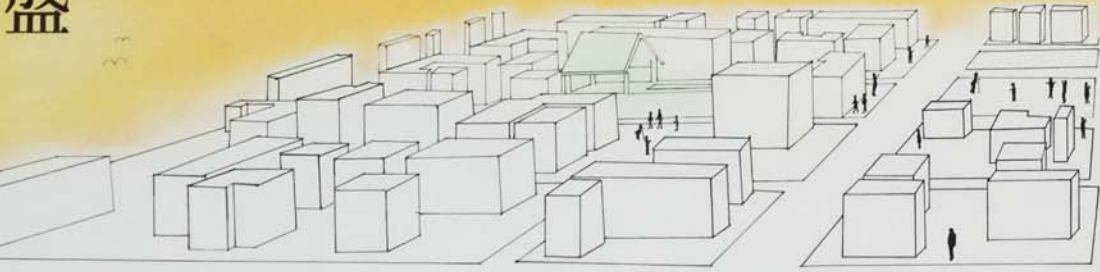
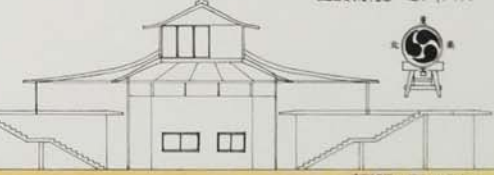
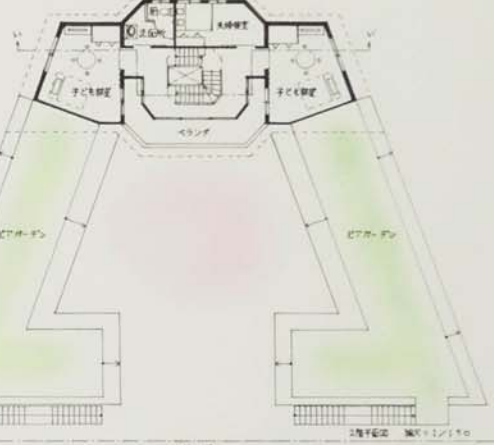
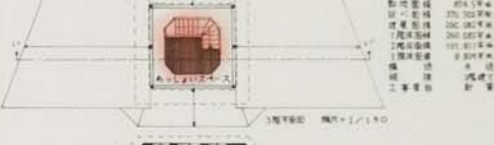
屋上にあるビアガーデンは近所の人々が通じたい場所です。近所同士の絆がさらに深まります。夜は満点の夜空を眺めることができます。



この家に住むお爺さんや近所の人たちが毎月おこなわれるイベントを考えます。子供からお年寄りまで楽しめる行事をおこない、明日への活力になります。



「わっしょいスペース」「祭り長屋」「西洋イベントスペース」ができることにより西洋祭からの祭囃子と、祭り長屋の祭囃子分響がわかるに名寄市すべてが一体になります。そして毎日に祭り長屋が行事を開くことにより近所同士の絆が深まります。この建物が街中の空き地を無くし、縁起になってしまった近所の人々を繋ぎます。そして名寄市は活気が溢れ、お爺さんは離れたい街だと感じる「地元愛」が育つ街となります。



私たちが大人になった未来の名寄市は、お隣さん同士が団結を結び今日も子ども達が地元を自慢し、笑顔で賑わっています。